

講義名	対)教養特講 (人間健康学科へのいざない)		
担当教員	内田 達介 / 大島 秀武 / 北村 裕美 / 関 和俊 / 前川 明 / 山口 泰雄 / 山口 志郎 / 山本 隼年 / 中山 一郎		
開講期・曜日・時限	前期 月曜日 3時限	授業形態	講義
履修開始年次	1年生	単位数	2
		備考	

<b>主題と概要</b> 1年生後期から始まる人間健康学科での専門的な学修に向けての基礎を築く。 身体の仕組みや心身の健康を維持するための知識、スポーツビジネスの仕組み、キャリア形成など、人間健康学科で取り扱うテーマの概要を知る。 楽しむためのスポーツ、支えるスポーツ、健康づくりのためのスポーツなど、さまざまな視点からのスポーツの演習を行う。
---

<b>到達目標</b> この科目は、「オンデマンド型」ではないため、時間割通りの時間帯に指定された教室で授業に参加すること。なお、新型コロナウイルス感染症等の学校感染症への感染者または濃厚接触者に指定され、一時的に通学が禁止となった場合は、解除後に個別対応する。 到達目標を以下に示す。 将来、専門家として各分野で活躍するために必要な知識や技術、資格取得について理解できる。 演習を通して、同じ学科で学ぶ学生相互の親睦を深め、コミュニケーション能力、対人関係能力、協調性を養い、引いては将来の進路選択を見据えたコース選択ができる。
---

<b>提出課題</b> 授業中に実施する小レポートや課題を提出する。
---------------------------------------

<b>課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック</b> 各回小レポートの提出がある。レポートに関して適宜フィードバックを行う。
---

<b>評価の基準</b> 提出課題や出席状況、授業への参加度などで評価する。 オムニバス科目のため、担当教員ごとに評価をした上で最終的に総合評価を行う。
--

<b>履修にあたっての注意・助言他</b> 遅刻限度は、開始後15分以内とする。 5回以上欠席した場合は、成績評価対象者と認めない。
--

<b>教科書</b> .使用しない。					

<b>プリント資料及び参考文献</b> 適宜、資料を配布する。
------------------------------------

<b>授業計画</b> 1: ガイダンス 2: キャリア形成と能力開発へのいざない 3: 健康体力学へのいざない 4: 健康づくり学へのいざない 5: スポーツ・運動処方学へのいざない 6: スポーツマーケティングへのいざない 7: 生涯スポーツへのいざない 8: キャリアデザイン学へのいざない 9: スポーツ心理学へのいざない 10: 健康運動・トレーニング指導者へのいざない 11: 健康経営学へのいざない 12: スポーツと環境(暑熱・高山など)へのいざない 13: スポーツツーリズムへのいざない 14: メンタルトレーニングへのいざない 15: まとめ
---

<b>授業形態(アクティブ・ラーニング)</b>	
ア: PBL(課題解決型学習)	イ: 反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ: ディスカッション、ディベート	エ: グループワーク
オ: プレゼンテーション	カ: 実習、フィールドワーク
キ: その他(A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

<b>準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間</b> 予習: 毎回の講義のテーマに沿った内容を事前に調べておくこと(2時間)。 復習: 各自で取り上げたテーマについて、自分の身の回りの事例をふまえてまとめておく(2時間)。
---

<b>卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連</b> 「健康的で豊かな社会の実現に貢献できる学生を育てる」ことが本学科のディプロマポリシーであるが、そのためには「健康分野に関する基礎知識を身につけ、健康関連産業やスポーツ関連産業で就職する」ことが目標となる。これらから学科において何を学び、その学びがいったいどのようなキャリア(進路や就職)と結びついていくのかという知識を養う講義であり、本学科のディプロマポリシーの達成に大きく貢献できる科目である。
---

<b>双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述</b> responやformsをコミュニケーションツールとして活用することがあるため、教員の説明を十分理解するように努めること。
--

<b>実務経験の有無及び活用</b>
--------------------

<b>備考</b>
-----------